

(様式1・小学校用①)

平成30年度 学 校 評 価 報 告

草加市立川柳小学校

(平成31年2月8日作成)

1 学校教育目標	
・かしこく（進んで学ぶ子） ・なかよく（明るく思いやりのある子） ・たくましく（健康でたくましい子）	
2 重点目標・努力目標	3 前年度の成果と課題
「子どもたち一人ひとりを大切に、笑顔と活気あふれる川柳小」 ・校内研修の充実を図り、基礎・基本の定着で学力向上を目指す。 ・児童にとって、学習の場、生活の場である教育的環境の整備・充実・活用を図る。 ・幼保小中との連携・一貫教育を進める。	成果 ○チーム川小として、校長のリーダーシップの下、全教職員が協力して、児童の教育活動に当たる体制が確立されている。研修では小中一貫カリキュラムの観点から、授業力向上を目指し、授業改善に取り組むことができた。 ○児童が落ち着いており、生徒指導上の問題も少ない。いじめ撲滅の取り組みを小中が連携して取り組み、成果を上げている。 ○幼保小中を一貫した教育の取り組みを積極的に進めている。高学年の教科担任制は児童や保護者から高い評価を得た。 課題 ●公の場ではしっかりと挨拶ができるが、日常では小さな声になる傾向がある。時と場に応じた挨拶ができる児童の育成を目指したい。

4 評価表 ※評価基準〔A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である〕				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	B	○保護者・職員学校評価を生かして、PDCAサイクルの下、会議資料の電子化、会議の精選などで効率化し、校務改善を図った。 ●負担軽減を教育の充実につなげるため、教材研究の時間や児童と直接向き合える時間の確保など、教育環境の向上に努めていく。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	B	○幼保小中を一貫した教育にふさわしい教科専門性を兼ね備えた教員の育成を目指した。幼保・特別支援合わせて4本の公開授業を実施して、校区の教育力向上につながった。 ●授業公開、管理職による授業指導など、教職員一人一人の授業改善をすることで、学力の向上につなげる。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	B	○非行防止教室やCAP、命の学習、携帯安全教室、救命救急研修、水泳指導における連絡・AED活用の徹底など、計画的に安全に対する指導を充実させることができた。 ●危機管理マニュアルの活用及び徹底を図っていく。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	B	○倫理確立委員会を中心にして、教員が講師役となり、当事者意識を持って事例研修を充実させることで、教職員一人一人の事故防止に対する意識の向上が図られた。 ●個人情報漏洩を防止するため、教職員のより一層の意識改革を図り、研修を推進する。

⑤地域との連携 開かれた学校	・ 学校情報の発信 ・ 学校公開の実施 ・ 学校評議員制度の活用 ・ 地域、校種間連携 ・ PTA活動の活性化	B	○地域の学校・園との連携、公民館のコミュニティ行事参加など、地域の方と一緒に活動する機会を充実させることができた。 H P 上における学校日記をほぼ毎日更新して、学校の様子を知らせることができた ●学校応援団の再編成を進めて行く。子どもたちの地域行事への参加の啓発を図っていく。
⑥幼保小中を一貫した教育	・ 目指す子ども像の実現に向けた取組 ・ 教育課程の編成 ・ 一貫教育推進のための組織づくり	A	○幼保小中連絡協議会を中心にして、あいさつ運動、引き取り訓練の実施など、連携を図ることができた。研究発表会を開催して、取り組みを市内外に紹介することができた。 ●研究発表会を今後の活動に生かすために、取組内容の評価を行い、さらに充実した活動ができるように努める。

(様式 1 ・ 小学校用②)

草加市立川柳小学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	・ 教育課程の編成、実施 ・ 教育計画の作成 ・ 教育活動の評価 ・ 目標、方針の周知 ・ 授業時数の配当、確保	B	○計画的に授業を行い、定められた教育課程を確実に実施することができた。 ●行事等を見直すことで、より一層、教育目標の具現化に努める。
	②教科指導	・ 指導計画の立案 ・ わかる授業づくり ・ 指導方法の工夫と改善 ・ 評価、評定の工夫 ・ 外部人材の活用	B	○共通授業スタイルの確立、個に応じた指導を充実したことで、学力の向上を図ることができた。 ●基礎・基本の確実な定着のために、更なる教師の指導力向上を図っていく。
	③道徳教育	・ 全体計画の作成 ・ 各教科との関連 ・ 道徳実践力の育成 ・ 家庭、地域社会との連携 ・ いのちの教育の推進	A	○道徳教育推進教師を中心に研修を計画的に実施して、指導力を高めることができた。 ●新学習指導要領実施に向けて、道徳ノートの活用、授業計画の見直しや家庭、地域への啓発を図り、より充実した道徳教育が行えるよう努める。
	④外国語活動	・ 指導計画の立案 ・ 指導方法の工夫と改善 ・ 評価、評定の工夫 ・ 各教科、道徳教育との関連 ・ 中学校との連携	B	○A L T との連携を図り、教科担任の役割を明確にし、質の高い授業を行うことができた。 ●新学習指導要領実施に向けて、教員研修を実施して、確実な指導力を身に付ける。
	⑤特別活動	・ 指導計画の立案 ・ 学級活動、学級経営 ・ 学校行事 ・ 児童会活動	B	○児童会活動では、縦割り班や代表委員会で児童が活動に取り組むことができた。 ●児童の自主性を育むための指導方法の充実を図っていく。
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	・ 指導計画の立案 ・ 指導内容の充実 ・ 指導方法の工夫と改善 ・ 評価の工夫	B	○計画的に外部組織や人材の活用を進めたことで、充実した活動を行うことができた。 ●年間指導計画の見直しや内容の精選を行い、活動の系統性を図っていく。
	⑦生徒指導	・ 組織的な生徒指導 ・ 問題行動への対処 ・ 教育相談、児童理解 ・ いじめ防止対策 ・ 保護者、地域、諸機関との連携	A	○生徒指導主任を中心に、全教職員が共通理解を図り、チームでの対応・情報共有及び積極的な生徒指導を充実させることができた。 ●小小連携・小中連携を進めながら継続的な指導を展開する。

⑧キャリア教育	- 計画の立案 - 指導内容の充実 - 中学校との連携 - 啓発的経験の充実 - 家庭、地域との連携強化	B	○埼玉西武ライオンズコーチをゲストティーチャーに招いた講演会など、内容の充実に努めた。 ●各学年の実態に応じた活動計画になるよう、改善を図っていく。
⑨特別支援教育	- 個別の指導計画、支援計画 - 指導方法の工夫と改善 - 通常学級との交流 - 諸機関との連携 - 校内支援体制の整備	A	○特別支援教育コーディネーターを中心に、就学相談や支援を計画的に行うことができた。 ●各学級に在籍する配慮を要する児童に対して、指導体制の充実を図っていく。
⑩学校図書館教育	- 指導計画、支援計画の作成 - 図書館補助員の活用 - 諸機関との連携 - 図書館の整備 - 図書館利用の工夫	B	○学校司書や中央図書館と連携を密にし、図書室の整備に努めることができた。18000冊貸出を目標にして意欲的に読書へ取り組んだ ●図書館の蔵書を増やして充実させ、効果的な活用を図っていく。朝活動として週2回実施する。
⑪情報教育	- 教育計画の作成 - 校内研修の充実 - ICT機器の積極的な活用 - 情報モラル教育の推進	B	○各教科でICTを生かした授業づくりに努めた。全学年で積極的に活用している。 ●各教科におけるICTの活用に向け、指導スキルの向上を図っていく。
⑫人権教育	- 全体計画の策定 - 各教科との関連 - 人権感覚の育成 - 校内研修の充実	B	○人権研修会や出張報告を通じて、人権を尊重した教育の推進をしている。 ●定期的な校内研修の充実を進めていく。

(様式1・小学校用③)

草加市立川柳小学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	①読書活動の充実	- 読書活動の計画立案 - 教職員の共通理解・共通行動 - 地域や保護者、諸機関との連携	B	○年間貸し出し数18000冊を具体的な目標に掲げて、児童が読みたくなる読書ビンゴなどの取り組み、蔵書の充実などに努めた。読み聞かせサークル「くれよんの会」による取組も定着しており、定期的にHP上で紹介した。 ●図書館司書教諭を柱に学校司書、中央図書館が連携して、貸し出し数20000冊を目標に取り組む。
	②体験活動の充実	- 指導計画の立案 - 諸機関との連携	A	○SKIPシティ映像学習、ケータイ安全教室、車いすバスケットボール体験会、認知症学習会、租税教室、盲導犬学習会、版画教室など、数多くの体験活動を実施することができた。事前・事後の指導を充実させることで、主体的に児童が学べるように環境を整えることができた。 ●内容を精選し、計画的に立案・運営し、年間指導計画をふまえながら、より一層の充実を図っていく。

③教職員の事務負担軽減による教育活動の充実	・計画立案 ・教職員の共通理解・共通行動	A	○校内カエル会議、市負担軽減検討委員会、市衛生推進委員会との連携を進めて、I C T導入や日課表の工夫など、効果的な取り組みを複数導入することができた。 ●負担軽減をすることにより、教育活動の充実につながるという意識を持ってもらい、提案のボトムアップを活用する。
-----------------------	-------------------------	---	--

5 総合評価（学校関係者評価を含む）

- チーム川小として、全教職員が協力して、児童の教育活動に当たる体制が確立されている。
- 児童が落ち着いており、生徒指導上の問題が少ない。
- 幼保小中を一貫した教育の取り組みを積極的に進めている。
- 高学年の教科担任制は児童や保護者アンケートからも高い評価を得ている。
- 生徒指導として、いじめ撲滅宣言などの取り組みを幼保小中が連携して取り組み、成果を上げている。
- 小中連携カリキュラムを生かして、授業力向上を目指して、授業改善に取り組むことができている。
- 授業の時などしっかりと挨拶ができるが、日常では小さな声になる傾向がみられる。時と場に応じた挨拶ができる児童の育成を目指したい。
- 課題研修として授業研究を実施したいという意見が寄せられており、研修のあり方も含めて検討したい。

6 次年度の改善策

- 教員の授業力向上を図り、児童の学力向上を目指す。
- 家庭・地域と連携しながら、あいさつ励行の取り組みを進める。
- 学校図書館司書教諭、学校司書、読み聞かせボランティアと連携しながら、さらに本に親しむ児童育成のため、読書活動の推進を図る。
- 学習にふさわしい学校生活を継続するために、積極的な生徒指導を推進していく。
- 幼保小中を一貫した教育の取り組みを進めるために、さらに連携を深めて充実させていく。